

# 第11回ちばてっく会報

## Chiba Teaching English to Children

ちばてっくは児童英語教育をみんなで考え、意見交換を行い、研鑽していく会です。

2月6日に「ついに始まった小学校英語教育！！どうしたらいいのだろう？」という議題を掲げ、行われた第11回ちばてっくのご報告を簡単 Azalea Language School にさせていただきます。

### (1) 『小学校英語教育におけるストーリーテリングの効果について—語彙習得の観点から—』

千葉市立都賀小学校 高橋 奈央子先生

現在の歌やチャンツ、ゲーム中心の小学校英語の授業は、はたして本当に子どもの身になっているのかという疑問から、高橋先生は子どもの心に蓄積されるような英語活動としてストーリーテリングを取り上げています。



○研究課題○ 第二言語教育におけるストーリーテリングの効用を調べ、子どもは物語や読み聞かせについてどのような考え方をしているのかを明らかにする。

3つの予備調査の主な結果

- ・語彙の獲得が進んだ可能性が高いと考えられる。
- ・物語を聞いている間に思っていたこととして英語と日本語との違いと答えた児童が11名。
- ・子どもは英語の物語、絵や動作から総合して内容を理解していた。
- ・既知の英語の物語なら安心して聞くことができる、また自分達が慣れ親しんでいる大人からの読み聞かせを好む傾向がある
- ・面白いと感じた物語は何度でも聞き、飽きない。

本調査1 子どもにとって既知、未知の内容となる2つの物語のストーリーテリング実施後、語彙テスト。

〈結果〉 テスト結果の数値からは英語の語彙獲得が確認でき、既知の物語が子どもにとって負担感が少ないと考えられる。また、参加者は単語の認識を高めたと言える。

本調査2 小学校2年生に自由記述、4択の2種類でアンケートを実施。

〈結果〉 日本語でも英語でも物語が好きで読んでもらいたいという意見があり、英語の音やリズム、文字に興味・関心を持って接していることがわかった。

本調査3 本調査1を終え、2つの物語のストーリーテリングを行った小学校2年生から抽出児3人を面接。

〈結果〉 絵や動作・文字から総合して物語の内容を理解、フィクションとノンフィクションの間での揺れ、英語の文字・音やリズムへの興味、自発的な英語の学び、自分にできる所とできない所の把握、ということが子どもの中で起こっていた。

### ○結論○

英語のストーリーテリングの効用として語彙の力や想像力、集中力、聞く力、英語の言葉の意味や物語の展開の予測、英語の物語を総合的に理解する力の向上に結び付くことがわかった。また、英語の音やリズム・文字への興味・関心を高める効果があり、英語のストーリーテリングは子どもにとって親しい大人の方が有効であることから、学級担任が行うのがふさわしいと考えられる。

## (2) 「ストーリーテリングを使った英語活動

### ージョイント・ストーリーテリングの有効性を探るー

千葉市立大宮小学校 吉田 倫子先生

長期研修生として千葉大学で学ばれていた吉田先生は、ジョイントストーリーテリングの指導の研究とその成果について、報告をしてくださいました。

○小学校英語活動の現状と問題点○ 子どもに身近な英単語、表現がトピックとなる現状や、「単語、会話が単発的。聞く活動が少なく、すぐに発話を促される」という問題点から、本当に英語が身につけているのか？という疑問とともに、「言語教育としての英語活動」と捉える事が必要と考えた。

○研究目標○ ・ストーリーテリングを使った教材作成を行う。

・英語ノートとジョイントストーリーテリングの方法を比較し、それぞれのよさについて明らかにする。

○基礎研究 ージョイントストーリーテリングとはー○

・ストーリーテリング…お話を語ること。意味のある文脈の中で言語を教える方法として優れている。

・ジョイントストーリーテリング…ストーリーに歌、チャンツを取り入れた意識的な言語教育活動。

教材作成の手順 ①言語材料を絵本から抜き出し吟味する。②原作で使われる音遊びや原作ならではの台詞を選定する。③英語を平易に直す。④会話中心にシナリオを作る。

○研究方法とその結果○ 5年生1クラスをAとBの2つのグループに分け、Aでは英語ノートを使用しオリジナルの劇を作るという活動を行い、Bではジョイントストーリーテリングを使用し、共に4時間の活動を通して、前後の語彙調査やアンケートにより子どもたちの反応を調べた。Bのグループで顕著だったものは、児童がいつの間にか話を覚えていてうれしかったと感じている点や、アンケートで英語が好きですか？という問いに対し、授業後では40%も増えていた点である。また、英語の発音をもっとよくするにはどうしたらよいか？などの意欲を持った児童も現れた。

○まとめ○ 成果として、ストーリーにより語句の修得が容易になり、ジョイントストーリーテリングのよって子どもたちが無理なく文が言えるようになったことが次の意欲へつながることや、物語の扱い方によってつく力が異なることが明らかになった。しかし、学習用のストーリー作成のための知識と時間の確保と教師の研究という新たな課題が見えた。



## (3) 『Storytelling と Joint Storytelling について』

千葉大学教育学部教授 アレン玉井 光江先生

ストーリーテリングの効果やそれを中心とした活動、ジョイント・ストーリーテリングについてアレン玉井光江先生にお話していただきました。

ストーリーテリングとは book reading とは異なり聞き手が主役となるものであり、語り手が聞き手の理解できるように話し方を変えていくのが特徴です。語られた物語をまず子どもは第一言語で持っている schema を使って理解していきます。この schema を作るのには時間がかかるため既知の物語を使うこと

が有効とされています。また、ストーリーテリングとは容易に理解できるものよりも少々上のレベルのものを与えてあげる comprehensible input にあたります。まだ話すことのできない赤ちゃんでも何も考えていないということはなく、周りからの input を貯めている状態にあることから同様に、小学校でも input をためることが必要ということでした。

○ストーリーテリングのメリット○ ・まだ文字を使うことのできない子どもにはまず音声言語を作らなければならないため、音声で伝えていくストーリーテリングは有効です。後にここで得た音声言語を文字へとつなげていくことが重要となります。

・物語を聞くことを通して中学校以降で触れる単語や中学校で読む語数以上の文章に触れることになり、長文へ



の恐れをなくすことができるという効果があります。

- ・文脈の中で英語を学ぶという学習は中学での学びよりもゆるやかなものと考えられます。

input にあたるストーリーテリングに対してジョイント・ストーリーテリングは pushed output であり、ここで身につけてほしい表現、文の構造、語彙を教えることとなります。

#### ○ジョイント・ストーリーテリングのメリット○

- ・チャンツや歌を使い、楽しく英語を学ぶことができます。
- ・聞いて終わりではなく耳で聞いたことを発話し、自分が上手く言うことができないと気付くことから、それを埋めようとする子どもの向上心を持った学びを得ることができます。
- ・耳から英語を聞き、それを口にすることで音声言語として教材がしっかりと定着していきます。
- ・英語を口にしながら目でそれに対応する文字を追いかけていくということから、音声言語から文字へと理解が進む。

また、ストーリーテリングで昔話を使用することについて、昔話は生きていく上で抱く無意識の問いの答えとなるものを含んでいる知恵の宝庫であり、だからこそ大事にしたいものであるということでした。その他にも、ストーリーテリングやジョイント・ストーリーテリングを実演していただき、今後英語教材に加わることとなった「大きなカブ」を始めとする様々な昔話についてなど多岐に渡るお話を伺うことができました。

#### (4) 「小・中英語教育連携、どうしたらいいの? ～成田中学校区 6 校での取り組みを通して～」

千葉県成田市立成田小学校 北村尚紀先生

14 年間中学校英語教員として教壇に立たれた北村先生は、現在、小学校英語の研究開発校として有名な成田市立成田小学校に活躍の場を移され、小学校教員として日々英語教育に尽力されている。今回は、小学校外国語活動において最も大きな問題の 1 つとなっている「小・中連携」における、成田小を含む成田中学校区 6 校の取り組みについてご講義いただいた。



#### ○これまでの成田小学校での英語活動○

平成 8 年度に研究開発校の指定を受けた成田小学校は、平成 12 年度から昨年度まで週 5 日、全学年で 20 分間の英語活動を行ってきた。授業のカリキュラムは成田市が作成したものに改良を重ねた独自のものを実践しており、成田中学校の英語教員がカリキュラムへのアドバイスをしたりと、小中間の交流も活発に行われている。また、市が直接雇用している 3 名の ALT と教員との連携も十分とられており、「伝達研修」と呼ばれる打合せでは各学年学級担任と ALT がよりよい授業を作り上げるために意見を交わす機会が持たれている。さらに全職員がカリキュラム班、評価班、学修形態班に振り分けられた「班別研究会」も定期的に行われており、成田小は英語指導について大変組織的な体系がとられていることが分かる。

#### ○今年度の成田小学校の取り組み○

平成 21 年度は週に 4 回、20 分間の英語活動を実施しており、うち 3 回は ALT と学級担任による TT、1 回は学級担任のみで実施している。担任が 1 人で授業を実施するのは簡単なことではないが、教員同士の連携やちょっとした声の掛け合いなどがその支えとなっている。また、小中連携を考える上で小学校同士の連携も必要となることから、成田中とその学校区にある小学校 5 校の 6 校合同研修が行われた。成田小に比べ英語教育への熱が低い学校では「成田小のカリキュラムを実施するのは無理だ」という声もあり、元の成田市のカリキュラムを使用することとなったが、その結果「英語が好き」な児童の数が成田小では減少してしまった。この結果も踏まえ、年間指導計画の見直しにも着手している。

そして同時に、6 校合同による研究推進委員会が動き出した。「思いを伝え合う英語科学習」を研究主題に、自己表現場面の設定、評価方法の工夫、「聞く・話す・読む・書く」活動をバランスよく取り入れた指導計画などがコミュニケーション能力の育成と小学校から中学校への円滑な移行に有効であると捉え、指導内容や評価方法などが整備されてきている。

残念ながら先の事業仕分けにより、この研究に関する研究費用はカットされてしまったとのことだったが、北村先生をはじめこの研究に関わる先生方は、子どもたちのため、本当に意味のある英語活動を作り上げるまでまだまだ走り続けていく、と力強く宣言してくださった。

#### (5)「高知県における小学校英語の取り組み」

高知大学人文学部教授・国際社会コミュニケーション学科長 村端 五郎先生

高知県からお越しいただきました村端先生からは、土佐の英語教育の歴史や高知県内における教育事情などの貴重なお話とともに、小学校英語活動への取り組みをお聞きすることができました。



#### ○高知県全体の取り組み状況○

35時間英語活動を行っている学校は37.6%と中四国地区における他県と比べても低く、年間実施予定時間数についての調査では11~20時間を予定している学校が227校中90校と多く、35時間よりもだいぶ少ない数となった。

高知県小学校外国語活動ガイドラインがあり、その中での小学校外国語活動の目標とは、

外国語を通じて、ことばや文化の豊かさや大切さに気づき、人と関わる楽しさ、伝え合う喜びを体験しながら、生き生きとコミュニケーション活動に参加する児童の育成

という関心・意欲を重視したものとなっている。高知県の基本姿勢や基本計画、小中連携の考え方と進め方などが記載され、高知県の実態をふまえた独自の取り組みを行う。

#### ○先生方に指導していること○

言葉=物事ととらえるモードスイッチの必要性や、Hi から Bye までの流れを汲んだ Hi-Bye English のすすめなどを参考に基本的対人コミュニケーションスキルなどをふまえ、「気づき」を促す環境づくりや「わくわく」「どきどき」いっぱい活動を行う。その際、『英語ノート』を教えるのではなく、『英語ノート』で教えるという意識が重要である。また活動を行うにあたり、小学校英語が情意面に与える影響を考慮し英語嫌いをつくらないことや小学校同士の連携からさらに中学校と小学校の連携へとつなげていくことが大切である。

・先生はこのお話の中で特に Lesson Study (授業研究) の重要性について強調されていました。また、高知での授業研究の推進に尽力されており、今後の小学校での英語活動の指導などにおいてもますますご活躍くださいますよう、心から期待しております。

千葉大学アレン玉井先生の閉会の挨拶で今年度ちばてっくは幕を閉じました。閉会後の懇親会にて活発な意見交換会が行われました。

次回の開催予定はHPを参照ください：<http://www.h2.dion.ne.jp/~azalea/ChibaTEC.htm>



JES 理事 アレン玉井光江 (千葉大学)

ちばてっく事務局長 勝山ひとみ (あぜりあ Language School・川村学園女子大学)

ちばてっく事務局一同 (千葉大学院・千葉大学教育学部)

e-mail:chibatec@yahoo.co.jp

(2010年2月 発行)